豊田工業高等専門学校	特別活動（5学科共通）	開講年度	令和04年度 (2022年度)

学科到達目標

①高専生として主体的に学習する姿勢を培う。
②エンジニアとして社会でキャリアを積み上げていくための礎をつくる。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	特別活動Ⅰ	00001	履修単位	0	1	1																			勝谷 浩明,髙村 明,山口 比砂,髙橋 清吾,寺嶋 宏樹,山田 慶太	
一般	必修	特別活動Ⅱ	00002	履修単位	0					1	1															京極 俊明,勝谷 浩明,寺嶋 宏樹,山田 慶太,髙橋 清吾,山口 比砂	
専門	必修	特別活動Ⅲ	00003	履修単位	0									1	1												

豊田工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	特別活動Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	00001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	活動	単位の種別と単位数	履修単位: 0
開設学科	特別活動（5学科共通）	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1
教科書/教材	特に指定しない		
担当教員	勝谷 浩明,髙村 明,山口 比砂,髙橋 清吾,寺嶋 宏樹,山田 慶太		

到達目標

高専生活に慣れ，自分の生活リズムを作ることができる。クラスメートと積極的に交流し，関係を築くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
高専での生活リズムを作る	他人の助言に耳を傾け，生活リズムを作ることができる	自分なりに考え，生活リズムを作ることができる	学校生活に適した生活リズムが作れない
クラスメートや先輩と交流する	積極的に交流することができる	交流することを意識することができる	交流することに意識を持たない
クラスでの役割に責任を持つ	週番の仕事を，他の学生と協力し，しっかり清掃できる	週番の仕事を，自分なりに考え清掃することができる	週番の仕事に参加しない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	中学校とは違う新しい環境で，特別活動を通してクラスメートとコミュニケーションを深めることで，良い関係を築く。 合宿研修・体育祭・文化祭では，クラスを越えた学年（横のつながり）や学科（縦のつながり）においてコミュニケーションを深める。
授業の進め方・方法	各ＨＲや学年集会において，学校行事と関連付けながら，話を聴く機会，個人で考える機会，お互いに話し合う機会などを設定して進める。
注意点	

選択必修の種別・旧カリ科目名

必履修／選択必修（国）／ホームルームⅠ

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	資料の配布 学生の自己紹介	クラスメートの自己紹介を温かく受け入れることができる。
		2週	クラス役員決め	クラスでの自分の貢献の仕方を考えることができる。
		3週	学年集会：学生心得講座	高専での理想的な過ごし方について考えることができる。
		4週	前学期目標設定 生活リズム点検	前期目標を立て，目標達成のための具体的方法を考えることができる。また生活リズム点検を通して，時間の管理について意識することができる。
		5週	寮祭の意義 科目の勉強室の紹介	本校での寮祭の意義について知ることができる。
		6週	ネットコミュニケーションについて	ネット社会に潜む危険性を知ることができる。
		7週	学年集会：中間試験について 学生相談室オリエンテーション	本校での試験に関するルールを知ることができる。
		8週	中間試験の注意確認 合宿研修の活動班分け	合宿研修での役割分担などをクラスメートと建設的に話し合うことができる。
	2ndQ	9週	学年集会：合宿研修について 未来への手紙について 将来イメージ講座	先輩の体験談を聞き，自分の将来をイメージすることができる。
		10週	安全を誓う日についての背景説明 高専体育大会の意義	部活動等において安全意識を高めることができる。 高専大会の意義を知ることができる。
		11週	前学期目標の振り返り 生活リズム点検	前期目標を振り返り，前期途中での目標達成度を測ることができる。また，達成に係る方法の改善案を挙げることができる。 生活リズム点検を通して，時間の管理について意識することができる。
		12週	クラス相互理解	グループ活動を通して，クラスメートの交流を深めることができる。
		13週	学年集会：定期試験について	本校での試験に関するルールを知ることができる。
		14週	高専大会の報告	高専大会での結果を通し，本校のスポーツ活動の特性や全国の高専内でのレベルを理解できる。
		15週	定期試験の注意確認 環境整備	定期試験に向けて，学習環境や心を整えることができる。
		16週	夏休みの振り返り 後学期の準備と確認 体育祭の意義	夏休みの過ごし方を，客観的に振り返ることができる。 体育祭の意義を知ることができる。
後期	3rdQ	1週	特別講演会：大切にしたい心とからだ	学生同士の付き合いで生じるトラブルを知り，相互理解について意識することができる。

		2週	避難訓練	地震発生時に自分が取るべき行動について考えることができる。
		3週	後学期目標設定 生活リズム点検	前期目標の達成度を評価し，その反省を踏まえて，後期の目標を立てることができる。また，それを達成するための具体的方法を提示することができる。
		4週	キャリア教育支援：スキルアップ講座	ここまでの自分の高専生活を振り返り，改善すべきことを考えることができる
		5週	こうよう祭について	こうよう祭の意義について知ることができる。
		6週	外部単位申請について スキルアップ講座の振り返り	外部単位制度について理解することができる。
		7週	学年集会	中間試験を控えて，学習環境と心を整えることができる。
		8週	中間試験に関する諸注意	本校での試験に関するルールを確認することができる。
	4thQ	9週	後学期目標の振り返り 生活リズム点検	後期目標を振り返り，後期途中での目標達成度を測ることができる。また，達成に係る方法の改善案を挙げることができる。
		10週	学年集会：冬休みの過ごし方について	冬休みを安全にすごすための注意点を理解することができる。
		11週	冬休みの注意事項確認	先週説明された冬休みを過ごすに当たっての注意点について，確認することができる。
		12週	転科のスケジュールについて	転科制度について理解することができる。また，そのスケジュールや手続きについて知ることができる。
		13週	環境美化の意義 体調管理の重要性	環境美化の意義について知ることができる。 定期試験を控えた時期における体調管理の重要性について理解することができる。
		14週	環境美化作業	学内外を清掃することで，環境整備への意識を高めることができる。
		15週	学年集会：定期試験について	本校での試験に関するルールを確認することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	3	前9
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前8,前9
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前8,前9
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	前9
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	前6
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	前6
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	前6
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	前11,後9
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	目標の実現に向けて計画ができる。	3	前4,前16,後3
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前11,前16,後9
				日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前4,前11,後3,後9
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	前5,前8,前9,前16
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前9
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	3	前3
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	前9
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前9
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前9
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	前9

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	70	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	70	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

豊田工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	特別活動Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	00002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	活動	単位の種別と単位数	履修単位: 0
開設学科	特別活動（5学科共通）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1
教科書/教材	特に指定しない		
担当教員	京極 俊明,勝谷 浩明,寺嶋 宏樹,山田 慶太,髙橋 清吾,山口 比砂		

到達目標

日々の色々な出来事があるなかで，自分を制御し，健全な生活リズムを保てるよう意識を持つ。卒業生や先輩の体験談を聞き，知識の幅と視野を広げる。また，自分の将来像をイメージする。交通やネット使用上のルールやモラルを知る。クラスメートとの関わりの中で，自分の気持ちを伝えたり，他人の気持ちを考えたりしながら，同じ目標に向かって進む。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
自分を制御し，生活リズムを整える	他人の助言に耳を傾け，生活リズムを改善できる	自分なりに考え，健全な生活リズムを崩さない	学校生活に適した生活リズムを築けない
他人との良いコミュニケーションを成立させる	他人の気持ちを考えて，リーダーシップを取り，話したり行動したりできる	他人の気持ちを考えて，話したり行動したりできる	他人からの助言や注意を聞いても，他人のことを一切考えない
自分の将来像をイメージし，今現在やるべきことを考える	先達の話を前向きに捉え，自分の将来に関する調べもの等を行い，今やるべきことを考えることができる	先達の話を聞き，そのアドバイスに沿って，今やるべきことを考えることができる	先達の話を聞いても，自分の将来について考えようとしない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	昨年度の１年間で，高専生活の概要を掴めたと思う。今年度は，昨年度の反省や周囲からの助言を踏まえて，より健全な生活リズムを模索・確立したい。また卒業後の自分をイメージすることで，今現在，どのような準備をしておくべきか考える。社会人準備期間という意味では，身近な社会のルールやモラルを知り，それを逸脱しないよう自律を心がける。学校行事などにおいて，クラスメートや先輩や後輩とのグループ作業を通して，議論や作業ができるような心の広がり，視野の広がりを目指す。
授業の進め方・方法	半期ごとの目標設定および振り返り・生活リズム点検・指導教員との二者面談を通して，日々の取り組みや生活を見つめ直し，自分の制御の仕方を模索する。講演会を通し，知識・視野を広げる。こうよう祭のクラス展で，クラスメートとの共同作業を経ることで，意見の述べ方・聴き方・まとめ方を学び，共同作業の楽しさを感じる。
注意点	

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	クラス役員決め 前学期目標設定	クラスへの貢献の仕方について考えることができる。 前期の目標を立て，目標達成のための具体的方法を考えることができる。
		2週	キャリア教育支援プログラム「目標設定・確認講座」 学年目標	昨年度の自分を振り返って反省し，今年度に活かすことができる。
		3週	特別講演「インターネットの危険」	ネット犯罪の例を知り，そのような行動を取らないよう意識することができる。
		4週	こうよう祭クラス展について 「こころと体の健康調査」	こうよう祭クラス展の企画について，クラスで話し合い，意見集約することができる。
		5週	交通安全講習会	自転車の交通ルールや運転時の危険性を知り，日常生活において意識することができる。
		6週	学年集会：試験勉強のアドバイス	昨年度の試験勉強での失敗例を提供し，改善策について話し合うことができる。
		7週	生活リズム点検	生活リズム点検を通して，時間の管理について意識することができる。
		8週	中間試験の注意確認	本校での試験ルールを確認することができる。
	2ndQ	9週	前学期目標の振り返り	前期目標を振り返り，前期途中での目標達成度を測ることができる。また，達成に係る方法の改善案を挙げることができる。
		10週	安全を誓う日についての背景確認 高専体育大会壮行会	部活動等において安全意識を新たにすることができる。
		11週	キャリア教育支援プログラム：今の私・卒業後の私	先輩の話を聞いて，卒業間際の自分をイメージし，今現在，準備できることを考えることができる。
		12週	情報セキュリティ宣誓書	情報セキュリティに関するモラルを知り，逸脱しないことを誓うことができる。
		13週	夏休みの諸注意	夏休みを安全に過ごすための注意点を理解することができる。
		14週	生活リズム点検	生活リズム点検を通して，時間の管理について意識することができる。
		15週	定期試験の注意確認	本校での試験に関するルールを再確認することができる。

		16週	前学期目標の反省 後学期目標の設定	前期目標の達成度を評価し，その反省を踏まえて，後期の目標を立てることができる。また，それを達成するための具体的方法を提示することができる。
後期	3rdQ	1週	環境美化作業	学内外を清掃することで，環境整備への意識を高めることができる。
		2週	避難訓練	地震発生時に自分が取るべき行動について考えることができる。
		3週	第1回スキー教育説明会	スキー教育の意義を理解することができる。自分のスキー・スノーボードに関する技能レベルを判断することができる。
		4週	クラス展の準備	クラスメートと相談しながら，担当作業に責任を持って取り組める。
		5週	クラス展の準備	クラスメートと相談しながら，担当作業に責任を持って取り組める。
		6週	クラス展の反省	クラス展を振り返り，反省点を挙げることができる。
		7週	生活リズム点検	生活リズム点検を通して，時間の管理について意識することができる。
		8週	中間試験の注意確認	本校での試験ルールを再確認することができる。
	4thQ	9週	キャリア教育支援プログラム：人間力講演会	卒業生の講話を聞き，知識や視野を広げることで，将来の社会生活についてイメージできる。
		10週	後学期目標の振り返り 生活リズム点検	後期目標を振り返り，後期途中での目標達成度を測ることができる。また，達成に係る方法の改善案を挙げることができる。
		11週	冬休みの諸注意	冬休みを安全に過ごすための注意点を理解することができる。
		12週	新年を迎えて	気持ちを切り替え，生活リズムを修正することができる。
		13週	生活リズム点検	生活リズム点検を通じて，時間の管理について意識することができる。
		14週	2月の予定について	今後の予定を把握し，自分のスケジュールに見通しを立てることができる。
		15週	第2回スキー教育説明会	スキー教育全般に関する計画と注意点について，自分の動きを想像しながら聞き，理解することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	3	後4
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前1,後4
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前1,後4
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	後4
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	前3,前12
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	前3,前12
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	前3,前12
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	前9,後10
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	3	後4
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	前1,前16
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前9,前16,後10
				日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前7,前14,後10,後13
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	前4,後3,後15
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前4,後4
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	3	前2
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	後9
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	後9
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	後9
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	後9

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	70	30	0	100

基礎的能力	0	0	0	70	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0